## 話題を呼んだ、ヒット企画展

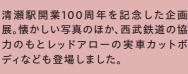
## BEST3

郷土博物館の歴史を彩った数々の企画展。その 中から、多くの来場者を魅了し話題となった3つを ピックアップ。当時の熱気とともに振り返ります。



## 2024年6月-9月

## 清瀬駅100年の物語



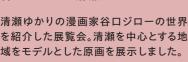


記念誌

EDU

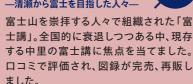
## 2023年1月-3月

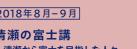
谷口ジローと清瀬











4,187人

## ました。

る皆さまにご来場いただきました。 示をつくり上げています。 2年前には、 市内外から1万4000人を超え 00周年を記念した特別展を開 常設展示のリニューアルを 昨年は清瀬駅

域の暮らしや文化を軸にしつつ、 展示物を手でふれられるようにするな た清瀬ならではの風景に注目した展示 との社会背景を絡めて紹介する工夫も しを浮かび上がらせる企画など、 空間に生まれ変わりました。 実際に体感し、見やすく親しみやす 昔の生活道具を通じて市民の暮ら 展示ケースの配置を工夫、一部の 例えば、農業や水路といっ 展示は地 訪れる 時代ご クチン、 ビリテ 1) ます

人の身近な記憶とつながる仕掛けが数多 あります

展を行うギャラリ

があります。

国の重要有形民俗文化財に指定され

常設展示の見どころは、

平 成 29 年

0

歩みをたどる常設展示室のほか、

企画

館内に入ると古代から近代までの清

の広い世代が郷土の歴史や文化に直接ふれ

られる学びの場となっています。

見学も受け入れ、

子どもから高齢者まで

を集め、

来館者が楽しみながら学べる展

員がテーマを練り、

約1年をかけて資料

年に数回行われる特別展では、

学芸

学校の授業や社会科

役割のひとつです。

学校や文化・芸術団体との連携も大切な

の資料を保全することもあります。

また、

地域文化と新しい挑戦

企画展の進化が示す

了承を得たうえで貴重な道具や文書など

り壊されるという情報を耳にし、

所有者の

行事の取材や、

ときには古い建物や蔵が取

です。市内で行われるお祭りなどの伝統 収集と保存、郷土文化や伝統行事の継承

ざまな医療技術の開発、 の歴史の中で、 療養されていました。長い結核との闘い 結核療養所に5000人にも及ぶ患者が 立清瀬病院が設立され、 清瀬には昭和6年(1931)に東京府 瀬の関わりの歴史を紹介する展示です。 組み、 療養生活を伝える資料 その中でも特徴的なのが、 展示では、 外科療法、 国際協力などが行われてきてい ションや社会復帰、 市内では乾燥BCGワ 当時の病院街の様子 化学療法などさま 多い時には14の 病気回復のリ 患者による 福祉への取 結核と清

> に引き継いでいくため「清瀬結核サミッ 発信し、 俳句や雑誌、 ト」の開催を予定しています。 清瀬市はこの歴史を広く世界に向けて などの出土品を紹介。 理解を深めるとともに、 病院で使用されていた食器 なお、 本年11月 後世

映像などを取り入れた新たな展示手法 「今後は、 検討も必要です」 もらえるよう、 開館40周年を迎えた今、 子どもたちにもっと興味を持っ 最新のデジタル技術 と話します。 東野館長は

 $\mathcal{O}$ 

# 記憶をつなぎ未来へ伝える

市民とともに歩み続け

時代とともに変わりゆく清瀬市。

継がれています。

りを見せています 近年では市民ボランティアの活動も広が 関わり、まちの記憶を共有してきました。 この地に育まれてきた歴史や文化は変わ くの市民が展示づくりやイベント運営に

資料を保存・展示す 人と人をつなぎ、 ションの拠点で 多

博物館を通じて次の世代へと受け 40年の歩みの中で、

**\** 042-493-8585 ↑ 清瀬市上清戸2-6-41 ⊙9:00~17:00/月曜休館

## 列車での食文化ストーリー ~想いを紡いでいく~

駅弁や車内販売、ビュッフェや寝台列 代とともに変化してきた「列車での食文化 」に焦点を当てた企画展です。

今回、小田急ロマンスカーの代名詞である『走る喫茶室』の 伝統の継承を目指す「ロマンスカーミュージアム」と鉄道文化 財として歴史的価値が高い寝台列車『夢空間』の伝統の復活 に挑む清瀬市が、その歴史を改めて振り返るとともに、『夢空 間復活プロジェクト』クラウドファンディングのPRも行います。

- ▶ 2025年10月11日(土) 26日(日) 清瀬市郷土博物館
- ▶ 2025年10月30日(木) -11月10日(月) ロマンスカーミュージアム (神奈川県海老名市)

※10/19 きよせ市民まつり2025にロマンスカーミュージアムが参加

紡ぎ続け、 地域の文化を育むコミュニティの場であ るだけの施設ではなく、 を発信するとともに 郷土博物館は、 これからも清瀬の歴史や文化の魅力 本市のシティプロモ 次の世代へと引き継いでい 「まちの記憶」

資料の収集・展示、さまざまな体験を通して、 まちの歴史や文化を守り続けてきました。

●地域の歴史を守り伝える

郷土博物館スタッフの皆さん

2 結核の関連資料を常設展

示。清瀬の病院街の歴史を

3 「清瀬のうちおり」常設展 示は季節によって入れ替わり

住民は受け継いできた歴史や文化を伝える

世代や立場を越えて人々がふれあい

替えを行い展示されています。 館の民俗展示室において、

また、

敷地内には古民家を模した「伝承

このまちの歴史や文化を知り、

古くからの

だいた貴重な資料です。

現在、郷土博物

定期的に入れ

知ることができます

郷土への理解や愛着を深める場として誕生

まし

博物館の大きな役割は、歴史的資料の

技を体感できる場として活用されています。

スタジオ」があり、先人の知恵や暮らし

の

地域の郷土文化を肌で感じられるイベント ここでは「染物教室」や「うどん打ち」など、

を定期的に行っています。

人々がふれあい学び合う拠点として歩んだ軌跡と、

開館から40年、清瀬市郷土博物館は市民とともに

では宅地開発が進み、新たに清瀬に移り

住む人々が増えていました。新たな住民は

き、

に保存されてきたものを市に寄贈いただ

市民の方が収集・整理にご尽力いた

うちおり」は、いままで、

市民の方が大切

布や着物などを織っていました。「清瀬の

農家の女性たちは売り物にならない屑眉か

養蚕や機織りが盛んにおこなわれており、

ら引いた絹糸や木綿の残糸で家族のために

のは、昭和6年 (1985)。当時、

の彫刻群を眺めながら歩くこと約10分。

清瀬駅北口からケヤキロードギャラリ

清瀬の歴史を未来へ伝えるふれあいと学びを通じて

代から昭和初期まで、

農家の副業として

清瀬では江戸

「清瀬のうちおり」です

自然豊かな場所に郷土博物館が開館した

民と

未来への挑戦を紹介します。